本草圖譜

果部

六十一

特 7
19
230

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230

ガラス使用

本草圖譜

本草圖譜卷之六十一目錄

果部 五果類

李 ほもゝ 二
一種 まんさいほもゝ
水李 集解 ふろすもゝ
青皮李 同 三
麥李 蘇頌 さもゝ
牛心李 時珍 四
徐李 附錄 不詳
杏 かうもゝ 五
白杏 集解 ふろあんほ
沙杏 同 もゝあんほ 六
一種 ほあんす
巴旦杏

特別 837-230
堀田文庫

国立国会図書館 タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230
ガラス使用

甘巴且杏	物印忙の圖	八	苦巴且杏 同上
同	度々楔斯の圖	九	同 舶来の物
梅	うめのもの		江梅 集解 やぼい 十
一種	冬至梅	十一	一種 黄金梅
緑萼梅 同	あをじく	十二	一種 ときハぼい
一種	ぶかうえ	十三	一種 ふうめ
消梅	つゝゆきぼい	十四	重葉梅 同 ざろんぼい 十五
一種	とひうめ	十六	一種 丁梅
一種	ちぶこう	十七	一種 緋もい
一種	かこしまおう	十八	鴛鴦梅 同 とうぼい
杏梅	ふんぼ	十九	一種 一重ぶんぼ 廿
一種	云とへのぶんぼ	廿一	一種 未開紅
一種	酒中花	廿二	一種 八朔もい
烏梅	ふもべうめ	廿三	白梅 うめがし
棚梅	不詳		

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』　請求記号 特7-230
ガラス使用

本草圖譜卷之六十一

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正　校
門人　小山廣孝

果部　五果類

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』　請求記号　特7-230
ガラス使用

李（り）

ほりゝ 和名鈔　ほむめ 美作　へんけいもゝ 江戸

フリユニユス 羅甸　フリユイムボーム 和蘭　疐之 群芳譜

碧雪（へきせつ） 名物法言花の名　合枝 本草和名引兼名苑　麗枝

青椅　顔淵　李 共に同上　李子樹 救荒本草

尾嚁　細畏 楚語

樹ハ梅と同しく葉ハ桃に似て濶く春月五瓣の小白花を開き実を結ふ梅に似て皮光澤あり一方に溝あり熟れハ紫紅色味ひ酸し

一種

まんだもも　実林檎に似て美なる故名つく

水李　集解

しろすもも

白李　花鏡

早晩の二種あり共に形状相似て花紅色を帯ひ実ハ前條より大にして熟せれハ紅色美し味ひ甘く酸を帯ふ時珍の説の胭脂なり

形状前に同ぐして花白色実ハ熟して黄白色味ひ甘美なり

青皮李　集解

物印忙に載る處の圖

麥李 蘓頌 さりら

早く熟る故名つく

奥州會津にハ此物許りにて尋常の李なし樹梢低く葉小く花白色李の如く実四五月熟し指頭の大さにて紫黒色に味ひ甘けれども美なしに

牛心李 時珍

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230
ガラス使用

近年異國より来る處々に栽も誤てこれをもたんけうまさ
あめんどうとも云枝葉李と同く実大よして形桃に似て尖りつ
りて心臓の形をなし大さ一振り許り熟すれハ黄色にして
紅色を帯ふ味ひ他の李に勝れり甚甜くして美なり肉厚
く核甚た小なり集解に説處の諸李詳なるに

徐李 附録 詳なるに

杏

かつもう 和名鈔 あんぜ 唐韻李子の轉 アブリユス 荷蘭

紅玉 名物方言 黄吉 本草和名引兼名苑 蓬莱杏 同上

阿舎伱矩 梵語 杏樹 救荒本草

樹ハ梅に似て枝肥て粗く紅色に葉ハぶんごむめに似たり
二月花を開く五瓣水紅色丁梅の如く後実を結ぶ形亦
梅に似て大なり其大にして黄赤色にして味ひ甘きものを
とらあんぜといふ是時珍説の金杏なりあんずと梅とハ
混し安く分別なしかたしあんぜも花に單瓣重瓣千葉
等あり唯あんぜハ枝粗にして長く葉円く実の味ひ甘く
して果となれ核と肉と離れ核小皺ありて桃に似たり
むめハ小木にハ細枝多く刺の如し実熟して味ひ酸く
核と肉と離れ核に雛なし此を以て分別すべし

白杏 集解

しろあんず

形状同くして
実大小熟して
黄色なり

沙杏 集解

しなあんぜ

形状同くして花千瓣菊花の如く実を結ぶを稀へ
蘭山の説に群芳譜の沙杏ハ甘して汁多く即世に称する処の水杏なりと
いへり杏核ハ梅核に似て扁く紋粗し桃核に比するに円くして扁く
仁ハ梅仁より大ひ之
薬用もへし四國より出る處の杏仁ハ真之江戸に来りむきらめといふ

一種　もあんず

マリユス　鱺の類

梅杏樹　救荒本草

樹葉共に杏似に似て二月葉に先て花あり五瓣淡紅色後実を結ぶ形梅に似て大なり味ひ酸し時珍の説に黄而帯レ酢者為ニ梅杏一といへり此余集解中の諸杏詳らかならず

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』　請求記号 特7-230
ガラス使用

巴且杏　匾桃（桃の集解）　波淡樹（同上）

物印忙の説に甘巴且杏ハ身躰を養ふ嗽嗽を除き精力脱歛羸瘦を強壮にして勞瘵及ひ肺労の症を復に苦巴且杏ハ暖地に生ず桃樹より高く葉挾く長く尖り味ひ苦し春花白色下利の功なし胸中の粘痰を吐咯せしめ吐を止め此を食て酒を飲ハ醉ふことなし狐猫鳩雞小甚た害あり動の見れハ死に桃の集解小匾桃出南番形匾肉澀核状如レ盒其仁甘美蛮人珍之名波淡樹樹甚高大偏核桃出波斯形薄而尖頭偏状如半月其仁酷似新羅桃子可レ食といへり

甘巴且杏

アメイクタリユス。ペルシカナ。ナフロレカル子ヲ。フレノアマイシ

物印忙に載る名

物印忙に載る圖

苦巴且杏 三種

物印忙に載る圖

アメイクタリユス。
ヒユミラペチト 物印忙に載る名

同

度々楫斯に載る処の圖 アメイグタリユスの圖ハ本邦俗に云処の桃類のあわんとうの形状に似て実尖りて長し

同

先年舶来する処の実並に葉の推葉を圖

梅

うゑのもか 和名鈔　うさゝくさ 順徳帝御歌　かもひくさ　かさまちくさ　もつかくさ 共に同上

つけくさ 藻塩草　百花魁 故事白眉　好文木 起居注

花魁 典籍使覧　世外佳人　鶴膝枝

清友　清客 共に同上　浮浮仙 名物法言

冰柟 花暦百詠　柟果 典籍使覧実の名　乾蓧 名物法言

右に云処ハ梅の總名ニ大和本草に梅花ハ獨天下の花に先て花を同し故百花魁と云花兄とも其香色形容亦百花にもとれたりと云梅類古へより今に至り其數四百除重に至る名花珎本等これあれとも此に載に逐て梅譜に出に今集解説ところの品を出に

江梅 集解

やぼい

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』　請求記号 特7-230　ガラス使用

江梅 集解

やぶい　直脚梅 梅譜　野梅 同上

大和本草に花も香多き梅を好文木と云事晉の起居注に見へたり日本の俗に好文木と称するハ白梅の香ふかれたる一種ありと云り人家庭等に多く栽て花を称し実を塩藏に花五瓣白色実杏に似て小く微し毛あり肉の味ひ酸く核小にして円し肉と核と離れに仁ハ杏仁に似て小く一方尖りあり一種ほそうめと云あり形状やぶいと同し枝を連て実をとりこれを振ときハ核小音あるを鈴の如し一種和実梅と云あり駿州及ひ江戸の官園にあり花葉やぶいの如くにして唯実熟して核甚さ薄く和かなり核を連て食ふ一種とさうめと云あり武州多摩郡青梅村にこの梅あり故村の名とに葉花やぶいと同しく唯実淡色にして冬月に至るまで落に

一種

冬至梅 和名

冬至に小花を開く蕚淡紅花白色單瓣なり

一種

黃金梅

和名

花單瓣ヤヽ瓣甚細ク白色小微ク黃色ヲ帶ブ

一種　てうせんぐい

花瓣ハ黃金梅ヨリ短ク蔓小附テ開ク

綠蔓梅

集解　あをづく

大和本草ハ近年中華ヨリ來ルトイフ枝條及ヒ蔓トリ綠色花單瓣純白色又千葉ノ物アリ又枝條下垂ルヽ青づくれと云

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230

ガラス使用

一種　ときハぞい

樹ハ野梅小似て大樹とならしに莖青く葉ハやもいに似て凹く春月芽を生じ新條數寸にして其莖の頭に一花を開く五瓣白色やぞいの如し枝を生じるを小一花を開くを尋常の梅に異なり四時絶に花ある故ときハぞいの名あり

一種　しなかつ

葉ハやぞいに似て大く花を小大にして香あり実もまた肥大なり依て△

△後水尾帝花もよく香もよく実もよき故もなかつと名を名せらる此花下小向ふ故一説小園史の照水梅に充つ

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』　請求記号 特7-230
ガラス使用

一種 しうめ
しなのうめ
ううしうだい

大和本草に甲斐信濃より出つといへり今處々これあり形状野梅と同ぶて。

○唯実四月熟して小なるを大豆の如し又稍大にして指頭の如きもあり

消梅 集解 つゞめきだい

此物紀の貫之愛賞するゆへ名つく枝幹稍杏に似て紫褐色花白色單瓣甚大ひにして実円く大小熟すれハ微し紅色生にて食すれハ甘美塩藏する時ハ味ひ劣り集解に実円鬆脆多レ液無レ滓恨可生噉不レ入煎造といへり消梅と名くる物ハ液多く滓なく口中にて消する如き故名つく然に大和本草に小うめを充つるハ的に小うめハ小にして食にて食へハ味ひ苦し由て今改む

重葉梅 集解

ざろんぼい　やつむめ　やつふさ

越後の國名産之花千葉淡紅色良香あり一蒂初めハ八九実を結ひ熟するに随つて二三実残る

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230
ガラス使用

重葉梅
やつぶさ

紅梅 集解
花紅色の物の總名なり

一種
とびうめ

菅家愛されし所
小て太宰府小二品に
り一ハ此物にして單瓣
淡紅荅及ひ瓣の先
紅色なり一ハ常の野
梅なり

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230
ガラス使用

一種　丁梅

此種江州丁村より出
つ官園に多し花草瓣

淡紅色実杏に似て肉
多し梅中の最とし塩
藏によろし

一種　ちぢゝう

草瓣の紅梅
の中にて色稍
薄し実小にて
肉少なし

一種

緋ぜい

花草瓣深赤色にして正月開く又朱ぜいなり
深紅色なり此二品実を結ばれ凡紅ぜいの
樹ハ心まで皆紅色に又寒中に花を開く物
あり寒とうぜいといふ

一種

かこしまとう

さつまこう

嫩葉枝條共小紅色を帯
ふ冬春の間花を開く重瓣
濃赤色大なる餘の紅梅
より甚美なり

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』　請求記号 特7-230
ガラス使用

鴛鴦梅 集解

とうぐい

新唐梅古唐梅の二種あり共小西土より来る今世小多く此物花大く淡紅色小して紅色の紋脉あり蕚紫紅色莖細く花を附と踈なり花開時ハ皆下小向

實を結ひて多くハ三實なれども又雙實の物もあり故小泉南新志に品字梅葯圃同者小三品梅といへり

杏梅 集解

ぶんざ

むざぐい

鵝梅 興化府志

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』　請求記号 特7-230
ガラス使用

同実

此物豊後肥後より出つ樹ハ杏に似て枝條肥て粗く花ハ重瓣淡紅色実杏に似て皮厚く紅星点あり集解小斑ありといふこれなり

国立国会図書館 タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230
ガラス使用

一種

一重のふんだ

花單瓣まれ
淡紅色なり

一種

玄とへのぶんだ

花單瓣淡
紅色なりて小
なり

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230

ガラス使用

一種

未開紅 和名

形状ぶんばに似て蒼の時ハ深紅開ときハ淡紅色なり

一種

酒中花 和名

三國一 同上

此品白川老候梅の中にて殊に賞せらる枝幹粗にして杏に似たり花の形桃に似て淡紅色單瓣のぶんばごいに似て花瓣の邊に紅色にして花中の絶品なり

一種　八朔ぢい

八月花を開く故に名つく枝條杏に似て花重瓣淡紅色へ

鳥梅　ふきへうめ

青梅をとり籠に入て竈の上に提け置熏して黒色になるものを云

白梅　うめぶし

青梅をとり塩まで漬け紫蘇の葉を加へ又漬て日に晒し乾しなるものを云

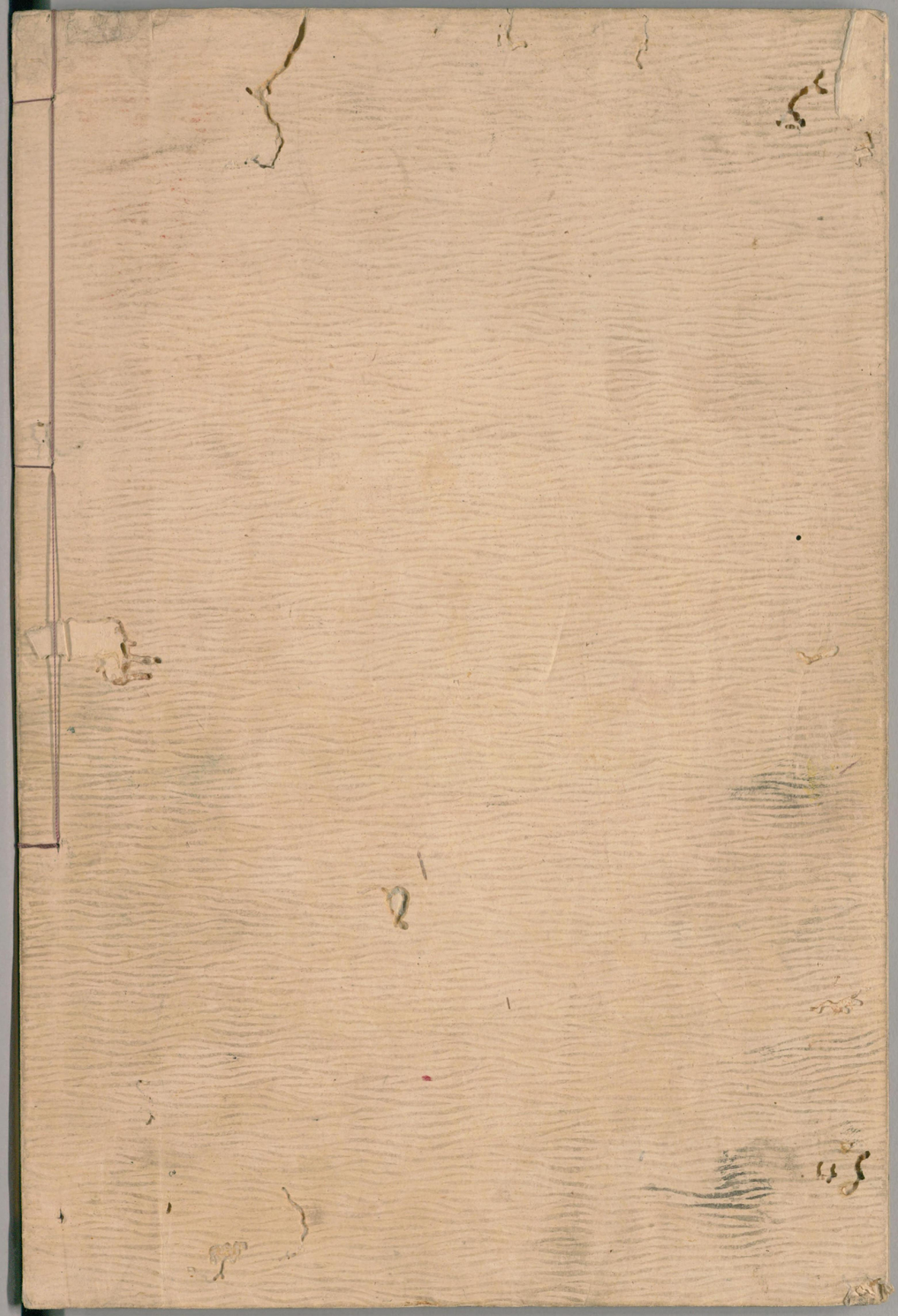
棚梅

和産なし西土にて棚樹樹あれを砧となして梅を接て一種の物となるよし然れともあきにれと梅とハ性質もなかに異

特 7
19
230

なれハ疑ひハしきをん

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『本草図譜』　請求記号　特7-230

ガラス使用